2部

現場(フィールド)から現場(フィールド)へ

大学４年間

通信教育部福祉心理学科卒業生　**遠藤 裕治**

皆さん、はじめまして2023年３月に福祉心理学科を卒業した遠藤裕治と申します。

通信教育課殿より『With』に在学生に向けて体験談の寄稿依頼があり、私の体験談で、何か皆様のご参考になればと思い寄稿を引き受けました。

“こんなおじさんもいるんだなぁ”と思っていただけると幸いです。

自己紹介

はじめに自己紹介をしたいと思います。

私は、今年の誕生日で58歳になります。子どもは、女の子（姉）と男の子（弟）の２人で娘は現在、26歳で他県の会社に就職したので家を巣立ちました。

息子は染色体異常で起こるエマヌエル症候群という障害を持って生まれてきました。生まれた頃、日本に症例が無くどのくらい生きられるかわからないと言われたのですが、６月で21歳になり、ケーキをたらふく食べて喜んでいる笑顔を見るとうれしくなり、息子から元気を分けてもらっているような気がしてます。そんな息子と妻の３人で楽しく暮らしています。20代前半の頃は、仕事が長続きせず、よく転職しましたが、20代後半に営業職なり現在も商社の営業マンとして働いています。趣味は休日に最近購入したスクータ（200cc）に乗り道の駅でソフトクリームを食べることで、最近では道の駅『にしかわ』で食べた米麹ソフトが一番おいしかったです。

入学動機

職場の管理職がパワハラタイプの人に変わりました。その管理職のコミュニケーションは一方通行なので部下の意見は自分への攻撃と受け取り、部下への態度はさらに悪化する始末。あまりにもひどいので組合で他の人に話を聞くと、この管理職がいるところは、いつも職場環境が悪化するので、会社側もわかっているのですが、証拠がつかめず手を焼いていることがわかりました。

管理職及びこの管理職に影響を受けている人の問題行動を撲滅するにはどうしたらいいだろうと考えたとき、なんで問題行動をしていることに気づかないのだろう？節穴の眼鏡でもかけているのか？等の疑問がわいてきました。しかし、今の自分は疑問の答えを説明できる知識が無い、それだったら学んでみよう！と思い53歳の４月に東北福祉大学の福祉心理学科（通信）に入学（１年次）しました。

専門科目とレポート

入学１年次のとき評価は別として基礎科目の何個かは「科目試験＋レポート」で単位がとれたのでいけるかもと思い、教科書を読んで専門科目の福祉心理学の科目試験に挑みました。しかし、問題は読めるのですが、言葉の意味が解らず科目試験の答案用紙に棄権と記載して試験をあきらめました。いろいろ考えた結果、そもそも、今の自分は、専門科目（心理）の知識が少ないので教科書を読んだだけでは理解が深まらないのではないかと思い、その後は必ずスクーリングを選択しました。

スクーリングでキャンパスに行くと『大学生なんだなぁ』という気持ちと、そこに来る学生の学びに来ている熱気（休憩時間もめちゃくちゃ質問してる人など）を感じ、孤独に勉強しているのは自分一人ではないと実感

できたことが、真摯に勉強へ向き合えたのかもしれません。２年目以降は新型コロナの感染症が始まり、オンデマンド中心で熱気を感じる機会は減りましたが、オンデマンドで良かった点は、期間中は繰り返し見れるので気になるところを再生して先生の言葉をヒントに書籍や論文を調べてレポート作成に役立てられることが良かった点です。

　また、１年目はレポートの書き出し方がわからず、レポート作成が進まないこともしばしば（いつも？）あり、書き方を変えてみようと考えました。それまでは、土日で一気に書き上げようとしていた方法をやめ、毎日早く（30分ぐらい）起きて中途半端でもいいので１～２行書いて、週末の土日で書いた文章を整理するやり方に変えてみました。またレポートで課題への説明が足りてないと思いながら早めに提出すると再提出で戻ってくることもよくありました。しかし指摘されてる箇所は説明が足りない部分なので、後は足りていないところだけを調べてレポート作成すればよいので、以前よりレポートが楽になりました。

卒業研究と現在

　卒業試験か卒業研究どちらにするか迷ったのですが、何か知りたい事があって心理学を学ぼうと思って大学に入ったのだから、やれるところまでやってみようと思い卒業研究を選択しました。指導教員は山口奈緒美先生で研究のやり方、論文の読み方、文章の書き方（主語、述語、修飾語他）を何度も（最後まで）丁寧にご指導いただき、また研究に使う質問紙の回収他、事務局の皆様方にご支援いただいて2023年１月29日（期限ぎりぎり）に何とか卒業研究を提出することができました。卒業生の卒業研究は東口キャンパスの事務局で見ることが出来ますので皆様の中で卒業研究を希望される方がいれば、ご覧になると卒業研究のイメージが付き易いと思います（私も見せてもらいました）。

卒業後、会社の組合で打ち合わせの際、大学で心理学を学んだことと卒業研究はパワハラに関する研究だったことを伝えるとメイン議題より盛り上がり、心理学の知識は頼りにしたいとのことで問題が起こったときは私にも連絡が入ることになりました。

また、今年で58歳になるので定年まで後２年ですが、定年も自分の人生では単なる通過点と考えて、今後は産業カウンセラーとキャリアコンサルタントの資格を取って身近な人の問題解決を支援する人生を歩みたいと思っています。

最後に、自分の尺度ですが、東北福祉大学に入学した頃と卒業した今を比べると日常生活や仕事場での物事を見る視点や考え方が４年間で成長してると実感します。

在学生の皆様方、日常の時間をやりくりしながら勉強をされていると思います。勉強して疑問を感じたら先生に質問することをお勧めします。東北福祉大学の先生は熱意ある方が多いのできっといろんな答えが返ってくると思います。

最後まで読んで頂き有難うございます。